



# 農協だより

## 畑賀小学校で水田を作りました！

広島市立畑賀小学校で広島市の補助を受けて、校内菜園を水田（15㎡）に作りかえる作業を監修いたしました。4月28日には休日にも係わらず5年生の生徒とその保護者が集まり、水田の周りを木の枠で作り、その中にあぜ板を設置し、床土にベントナイトを25袋を混ぜて水漏れを防ぐ工事をしました。その後、生徒たちで地域の方に分けて頂いた田んぼの作土を一輪車で300杯も水田に入れて、その土を耕し、肥料（JB575M）を混ぜ、代かきをし、はれて6月5日にココノエモチの苗を植えました。田植えから3週間が経ち苗も順調にすくすくと育っています。

また、6月13日、海田小学校で先月、種まきしたコシヒカリの苗をバケツ稲に定植しました。当日は晴れて気温も高く6月の過去最高気温を記録した日にも係わらず、生徒たちは炎天下の中、バケツに土と肥料を入れ、水を入れ、手でかき混ぜ泥を作り、泥だらけになりながら苗を植えていました。植え終わる頃には気温が高い為バケツの水がお湯の様になっておりましたが、生育には適度な温度管理が大切と指導をしました。収穫まで大変な作業がたくさんありますが、生徒の愛情で順調に生育することを見守って行きます。



畑賀小学校 水田



海田小学校 バケツ稲

## 水稻苗完売しました

育苗センターにて、4月1日の第1回目から5月24日まで計8回の播種作業を行い、19,971箱の水稻苗を販売しました。4月～5月の中旬にかけて気温の変化が激しく、育苗中の温度管理がとても難しい年でした。たくさんのご利用ありがとうございました。来年もよろしくお願いたします。

## 活菜倶楽部総会開催

JA安芸活菜倶楽部通常総会が5月31日(金)にJA安芸本店にて盛大に行われました。平成24年度は、栽培履歴の記帳・点検・勉強会などで「食の安全・安心」への取組みを一層高めてきました。また、先進地視察、講習会等を行い栽培技術の向上にも力を入れてきました。平成25年度においては、引き続き信頼を確保するため栽培履歴システムの一層の充実を図り消費者へ安全な農産物を提供して行きます。平成24年度の販売実績は72,408千円となりました。今回も13名の表彰を行い、労をねぎらうと共にさらなる飛躍を願いました。

## 予約回覧承り中

夏まき野菜苗(キャベツ、ブロッコリー等)、秋まき野菜苗(イチゴ、タマネギ等)、園芸用肥料(やさい化成1・2号、ベストマッチ等)、農薬(Jエース粒剤等)、土壌改良剤(ミネラルA、ケイテツエース等)、生わら発酵促進資材、除草剤(クロレートS等)について7月12日まで回覧注文を支店購買部で取りまとめいたしますのでご利用のほどよろしくお願いたします。

## 稲作講習会開催しました

6月10日より10会場で稲作講習会を行い、合計で122名の方に出席していただきました。田植え後の水管理及び肥料・農薬の使用方法などの説明を中心に講習を行いました。

初期除草剤の使用基準が変更になり、使用方法に戸惑われる方が多くおられました。これから使用する農薬も使用基準を守って使用してください。

## JA安芸切花品評会出品者募集！

出品受付:7月26日(金)9:00~12:00

表彰式:7月27日(土)15:00~

**目的** 花き栽培農家の出荷技術および切花品質を競うことにより生産意欲の高揚と切花品質の向上を図ることを目的とします。また消費者に地場産切花の理解を図ることも目的としています。

**名称** 平成25年度JA安芸切花品評会

**開催場所** JA安芸 阿戸支店

**出品規格**

- (1) 出品対象者は、JA安芸管内の花き生産農家
- (2) 出品規格は、原則としては10本を1束ですが、新テッポウユリ・ヒマワリ  
グロリオサ・宿根カスミ草については、5本を1束とします

**表彰**

- |      |  |
|------|--|
| 組合長賞 | 特等1点、一等2点、二等3点、三等4点                    |
| 特別賞  | 安芸区長賞・榊花満賞・瀬野川農事研究会会長賞・阿戸町農事研究会会長賞 各1点 |



# 7月 営農メモ



## 水稲

心配された水不足も解消されました、これからも適切な水管理を徹底してください。

○**幼穂形成期までの水管理**(根の健全化、倒伏防止と茎数の調節をめざします)

「早生品種」コシヒカリ、ココノエモチなどは出穂30日前頃(6月下旬～7月初旬)から株元の茎の中に幼穂ができて始めます。中干しを終えたら間断かんがい根に水と空気を供給します。ガスの発生し易い水田では5日以上滞水はさけるようにして下さい。「中生品種」ヒノヒカリ、あきろまんなどは最高分げつ期が7月上旬です。圃場や田植え時期によって分げつにバラつきがあり過剰稲から小株稲まであります。過剰稲では早めに強く干し、分げつ不足の稲では軽めの中干しとします。時期は幼穂形成期前(7月中旬ごろ)までです。

○**穂肥** さじ加減や時期で収量(1穂のモミ数、モミの大きさ)品質、食味に影響します。穂肥までの葉色の落ちすぎた圃場や、一発肥料においてもつなぎ肥をしたほうが良い場合があります。(平年の品種別出穂期は稲作ごよみを参考にして下さい)

品種名	穂肥1の時期	葉色板による判断	施肥量(多木V化成の場合)
コシヒカリ	出穂18日前	3.0～3.5	10～15kg
ヒノヒカリ	出穂24日前	3.5～4.0	
あきろまん	出穂24日前	4.0～4.5	15kg
ココノエモチ	出穂24日前	4.0～4.5	

○**病害虫防除** 早期発見・早期防除に努めましょう!

予防散布の粒剤体系ではイモチエーススタークル粒剤(いもち病・紋枯病、カメムシ類、ウンカ類など)3kgを出穂5～10日前に散布。但し、コブノメイガやイネアオムシなどが発生した場合にはバダンバツサ粒剤などを散布して下さい。粉剤体系ではパダントレバリダビーム粉剤DL(穂いもち・紋枯病・ウンカ類・カメムシ類・コブノメイガなど)を5～10日前に散布して下さい。カメムシ類は山間棚田やイネ科雑草繁茂地の周辺では被害が出やすいので注意して下さい。紋枯病は高温多湿で発生しやすく近年増加傾向の病気です。常習地では早めに防除して下さい。リンバー粒剤・モンガリット粒剤(稲こじ病も同時防除)またはバリダシン粉剤DLを適期に散布して下さい。

## ワラ腐熟資材

コンバインが普及して稲刈りと同時に裁断されたワラが田にまかれています。ワラは、早く腐熟する有機資材として園芸でも調法していますが、水田においては秋からの管理によっては春に未熟なワラが多く残り、代かき後から除草剤効果、赤枯れ症(ガスの発生)等の問題になることがあるので腐熟資材の比較をしてみました。資材は、粒状石灰窒素・ミナクサル粒剤・タキアゼ S 粒剤・アグリ革命アクア・アグリ革命の5種類。各資材を11月に粒状石灰窒素 20kg/10a・ミナクサル粒剤 15kg/10a・タキアゼ S 粒剤 30kg/10a・アグリ革命アクア 100ml/10a・アグリ革命 2kg/10aをそれぞれ散布して耕運いたしました。また、3月上旬に耕運、5月に荒起こし、代かきを行い6月2日に田植えを行いました。

結果、田植え時のワラの状態は、タキアゼ S 粒剤=アグリ革命アクア=アグリ革命は、粒状石灰窒素より少なく、ミナクサル粒剤は多かったです。6月18日に各圃場のガスの発生状況について調査を行ったところどの田も泡が発生しましたが、生育には問題ない状態でした。これからも様子を見ていきます。

## 秋野菜の播種

7月10日頃より秋取りキャベツなどの播種が順次行えます。品種や播種時期を変えて長期間出荷できる様にしましょう。また、虫が多い時期となりますので、防虫ネットや、気温が高くなりますので寒冷紗等を利用して育苗してください。

**圃場** 夏野菜の収穫が最盛期となりますので、追肥を行い樹勢を維持しましょう。梅雨明けは乾燥しやすいので、きゅうりやなす等では4～5日おきに灌水も行いましょう。

**整枝** 枝が込み合ってくると下葉の黄化や、ハダニ、うどんこ病などの病害虫が出やすくなりますので、摘葉や枝の整理を行い、風通しをよくしましょう。

**なす更新剪定** 7月下旬以降は日射しが強く果実のつや無果や、病害虫などにより樹勢が低下してきますので、7月下旬に更新剪定を行い、追肥、ハダニの防除を行うと、約1ヵ月後より収穫が再開できるようになります。この時枝先を切るのではなく、主枝に3～4芽残す様に、強めに剪定を行ってください。

## 病害虫

**カメムシ** ピーマンやなす、えだまめなど被害があります。えだまめでは着実後にカメムシに被害されると莢の汚れなどが目立ち品質低下となりますので、開花後～着実始めにオルトラン水和剤やトレボン乳剤などを散布しておきましょう。オルトラン水和剤で21日、トレボン乳剤で14日使用後収穫ができませんので遅れないように散布してください。

**うどんこ病** なすやきゅうりなどでは梅雨終盤頃より被害が出やすくなります。整枝を行い通風を図る様にすると発生が軽減されますが、発生初めにトリフミン水和剤や、トップジンM水和剤等で防除し蔓延しない様にしましょう。

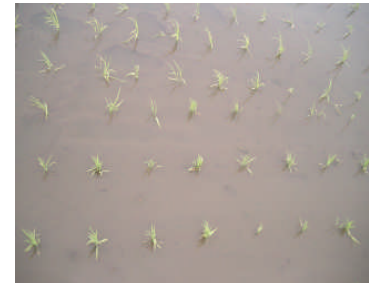
**ハダニ** 多くの作物で被害がうけますが、特に天気が続くと葉の黄化やなすなどでは落葉等の被害が出ます。主に葉裏に生息しており、特に下葉などが込み合って風通しが悪い所では発生が多くなります。通常の殺虫剤では効果がない物が多いので、殺ダニ剤を散布します。殺ダニ剤は抵抗性が着きやすいため総使用回数が少ない物が多く、4～5日おきに3回程度続けて散布しないと密度が減らないので、葉裏に水を噴霧器で洗い流す様にかけるだけでもかなり効果がありますので試してみてください。

**コナガ** キャベツなどのあぶらな科作物で被害が多いので防虫ネットを使用し侵入を軽減しましょう。葉裏より薄皮を残して食害されますので、被害が出始めたらオルトラン水和剤やアファーム乳剤等で防除しましょう。

**尻腐れ病** トマトやピーマン等では夏場に果実の先が黒くへこんだ物が多くなります。これらは病気ではなくカルシウム不足によって発生します。主に水が不足した時に被害が助長されますので、灌水を行うと被害が軽減されます。また多発時には灌水と併せ、アグリメイトなどカルシウムの入った葉面散布剤を定期的に散布してください。



十一月の耕運後  
ワラは全部田に戻した



六月二日に田植えを行い、六月五日の状態、地面には多少ワラは見えるが水面にはない状態でした。